

厚生労働科学研究費補助金

政策科学総合研究事業 (臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業)

分担研究報告書

クラウド上の医療 AI 利用促進のためのネットワークセキュリティ構成類型化と
実証及び施策の提言

研究分担者 金子 誠暁

BIPROGY 株式会社 パブリックサービス第三本部公共サービス部 第四室長

研究要旨

医療従事者と医療 AI との協調は、医療従事者の働き方改革の実現や医療の均てん化には重要である。質の高い医療データに基づいて開発された医療 AI サービスが次々に生まれ、幅広い医療機関で利用されるためには、利用しやすい価格とクラウドの利用が不可欠である。本研究では、医療機関の特性によって、費用対効果も意識した具体的なネットワーク構成やセキュリティ監査の方法を示すことにより、医療機関が安全・安心にクラウド環境上の医療 AI サービスを利用できるためのルール策定を目的とした。医療機関のセキュリティ対策の現状を理解するために、23 医療機関に対面でヒアリングを実施した。ヒアリング内容をもとにネットワークの類型化を JASO TP-15002 を活用し、脅威・リスクを整理した。脅威・リスクをもとに、最新クラウドセキュリティに関する整理を行い、現状の医療機関のセキュリティをもとにクラウド利用に発展した際の対策を机上で整理した。2024 度は医療機関から外部接続するユースケースを整理した。2025 年度は 2023 年～2025 年の調査整理を行い、提言に向けて整理を行う予定である。

A. 研究目的

2023 年度は国内医療機関へのヒアリングを実行し医療機関の類型化案を策定し、類型化に基づいて、医療機関が外部ネットワークに出る際に、国内外の最先端セキュリティ技術を探索し、機能評価を行う。その結果、医療機関の特性によって、費用対効果も意識した具体的なネットワーク構成を示した。

2024 年度は、2023 年度の成果をもとに、医療機関から外部接続するユースケースを整理し、クラウド利用における課題点等を抽出した。

B. 研究方法

医療機関から外部接続するユースケースを選定し、該医療機関へ実態調査のためのヒアリングを実施した。

(倫理面への配慮)

本研究においては特段なし。

C. 研究結果

ユースケースは以下の 5 パターンを選定した。No1,4,5 は実際国内医療機関にて稼働させているベンダ様へヒアリングを実施した。

No2,3 はネットワークアーキテクチャグループの東北大藤井先生・中村先生にご協力いただき、PoC 環境を準備し評価を実施した。(No3 は 2025 年度に構成を継続検討中)

ユースケース1は、医療機関側で新たなネットワークやシステムの新設工事負担なしに、既設のネットワーク・システムを利用して、医療AIプラットフォーム技術研究組合 (Healthcare AI Platform Collaborative Innovation Partnership、略称「HAIP」)に搭載されている医療AIを活用できるかを、株式会社ソフトウェア・サービス(略称SSI)と恵寿総合病院の協力を得て実証を行っている内容のヒアリングを行った。

医療機関にとってのメリットは以下である。

- 既設のネットワークを利用することでシステム利用のための機器購入等のコスト負担がかからない。
- 電子カルテベンダーは、既設のネットワークを利用することで、医療機関側と導入調整がしやすい。
- 医師は、電子カルテ側の環境に機能を追加するため、医療従事者側の操作に影響がない。
- 医師は、AI サービスを利用することで、異変の見落とし防止や、業務の効率化できた。

ユースケース2は、各医療機関が AI を活用する場合に課題となるシステムの導入コスト負担を抑えるために、地域医療連携システムを経由し、HAIP の基盤に搭載されている AI に接続できるかを、東北大学病院の協力を得て実証を行っている。2025 年度継続予定。

ユースケース3は、AIの利用形態の1つとしてクラウド上にある音声AIの活用や電子カルテ端末によるWeb会議の利用を検討しており、端末側マイクデバイスで利用できる新しいインターネット分離ソリューションであるRevoWorks Browser(ジェイズ・コミュニケーション株式会社製品)を試験的に利用し、音声AIの活用やWeb会議が利用可能か東北大学病院様の協力を得て実証を行った。

医療機関にとってのメリットは以下である。

- 既電子カルテ端末がインターネットに接続できる為、別途インターネットに接続可能な端末を用意する必要がなくコストの削減が可能。
- 端末側のマイクデバイスを利用できるため、電子カルテ端末で音声 AI・W

eb 会議の利用もでき、医師の働き方改革に活用できる可能性がある。

- インターネット分離製品のため、セキュアにインターネットに接続できる。
(ローカルコンテナ技術を利用して
いるため、万が一感染しても、端末の
ローカルデータに影響を及ぼさない)

但し、システムを導入するためのネットワーク
変更・機器の導入コストが多くかかるデメリット
もある。

ユースケース 4 は、医師の働き方改革制度に伴
い、これまで院内利用のみが主体であった電子
カルテシステムに、医師が院外からセキュアに
アクセスできる仕組みが必要になることが想
定される。院外からセキュアに電子カルテシ
ステムへアクセスできる仕組みについて、既にリ
モートデスクトップサービス(略 RDP)を活用
しているケースをヒアリングした。

医療機関のメリットとしては、併設のクリニ
ックや外出先から電子カルテシステムにア
クセスすることで、往診や緊急時のテレワ
ーク等が可能になり、医師の働き方改革につな
がる可能性がある一方、サービス導入のコス
トとしてはネットワーク環境を用意するた
め割高になる。

- 常時 3Mbps の回線を保有可能なネッ
トワークを用意する必要がある。
- クリニック⇄本院等医療機関を接続
するための VPN または、閉域網を用
意する必要がある。
- 外出先から医療機関のネットワーク
に接続するための、端末および VPN
装置、閉域網が必要となる。

ユースケース 5 は、離島やへき地における医
療の地域差を縮め、医療の質の向上や患者の
利便性の向上のため、徳洲会グループ採用し

ているボードレス・ビジョン株式会社、天馬
諮問株式会社の 2 社へヒアリングを行った。

医療機関にとってのメリットは以下である。

- 遠隔で医師と医師がつながることで、
専門的な意識を持った医師の支援を
受けながら、離島・へき地の医師が手
術を行うことができる。
⇒患者も離島から本土に移動するこ
となく、手術を受けられるため、移動
等患者の負担も軽減できる。
- 教育ツールとして利用することで、離
島・へき地の医師に対し、本土の医師
が指導することができ、意思の技術力
向上にもつながる。
- オンライン診療にも利用可能であり、
遠方にいる患者の診察・診断ができる。
- 救急時に、専門外の患者に対して、専
門医の支援をうけることができる。
- 既存でインターネットに接続可能な
端末があれば、別途専用機器を用意す
ることなくシステムの利用が可能(手
術支援のための専用機器が必要な場
合を除く)
- HIS 系のネットワークに接続する必要
がないため、重要ネットワークに影響
なく導入が可能である。

但し、サービス導入のため、機材の購入が必要
なことがある。

ユースケース導入難易度は以下と評価。

<<難易度：高>>

実証システムを利用するためにネットワ
ークの大幅な変更や新設・または機器の調達
が必要となる。セキュリティポリシーにより
実証システムを導入することが難しい

<<難易度：中>>

既設ネットワークの軽微な変更、または機
器の調達が必要となるが、実証システムの利

用が可能

<<難易度：低>>

既設ネットワークの変更が少ない、または設定変更なく実証システムの利用が可能

それら難易度をユースケースに当てはめると、

ユースケース	難易度
No1	低
No2	高
No3	高
No4	低
No5	高または中

であった。

ネットワークセキュリティ対策の代表的なソリューション調査を 2023 年度に引き続き 2024 年度も実施した。

- アカウント層：ソリューション
 - IAM (権限のきめ細かな設定や、パスワードポリシー強制など含む認証基盤)
 - PAM (特権管理)
 - IGA (ID ライフサイクル管理)
- エンドポイント層：
 - EDR (PC やサーバにおけるウィルス等の不審な挙動を検知・対応)
 - UEM (デバイス設定、アプリケーション管理、セキュリティポリシー適用)
- ネットワーク層：
 - SASE (SSE、SD-WAN 含むネットワーク&セキュリティ統合サービス)
- 監視・検知層：
 - EDR (PC やサーバにおけるウィルス等の不審な挙動を検知・対応)
 - XDR (エンドポイント、ネットワークなど広範囲に渡りウィルス等の不審な挙動を検知・対応)
 - SIEM (ネットワーク機器や各種ソフトウェアが生成するイベント情報の

統合管理)、NDR (ネットワークトラフィックを分析し攻撃や不正の兆候を可視化・検知)

以上を選定し、クラウドセキュリティ技術の机上調査を行った。今年度は一部調査を追加し、また 2023 年度からのピックアップソリューションが ISMAP の登録状況等確認を行った。

D. 考察

複数のユースケースをヒアリング・実証した結果、医療機関が医療 AI やシステムを利用する場合、以下の効果が考えられる。

- 医療機関の既設のネットワーク・システム設備や地域医療連携システムを活用することで、病院側の費用・運用変更の負担を抑え医療 AI を推進できる
- 遠隔医療のための IT ソリューションを活用することで離島やへき地における医療の地域差を縮めることを可能とし、医療の質の向上や患者の利便性の向上に有効。
- クラウド上の医療 AI の利用による医療の質、業務の効率化が期待できる。
- 外出先や自宅など医療機関外から電子カルテ等の情報を閲覧可能とする事例が増えてきている。今後の需要次第では働き方改革につながることを期待できる

また、ユースケースを実施する中で医療機関が安全・安心にデジタル技術を活用するための課題も見えてきた。

- 医療機関によってことなるセキュリティレベル
 - 医療機関によっては、セキュリティ方針により電子カルテ端末など HIS 系の情報をインターネット側に接続できない。
 - クラウド上の医療 AI を利用するには、医療機関のネットワークをインターネットに接続する場合も

ある。そのため外部からの攻撃に備えたセキュリティ対策も必要である。

- 各医療機関が理想的なセキュリティ状態を維持するためには、セキュリティ有識者の協力やセキュリティ製品の導入コストも必要となる。
- 医療機関ごとに異なるネットワーク・システム構成
 - 既設のネットワークを利用して医療 AI を利用可能な医療機関も、ネットワーク帯域量によっては利用できない、または帯域量の変更が必要となる場合がある。
 - 医療機関のネットワーク構成によっては、医療 AI や IT ソリューションを導入するために、大幅なネットワーク構成の変更や機器の導入が必要な場合がある。
 - IT ソリューションによっては、端末に標準搭載されているサービスで利用可のであるが、製品によっては専用ソフトウェアを導入する

必要があり、端末の他ソフトウェアとの互換性も考える必要がある。

E. 結論

いかにして既存の設備や技術を活用しながら、セキュアなネットワークインフラを構成し医療 DX を支えるかが今後の課題であり、特に医療機関及び患者にとって費用対効果がでるソリューションを普及させるかが我々にとっての重要なテーマである。

次年度は、ユースケース 2 の実証の継続並びに医療機関だけではなく、保守メンテナンスを行っているベンダへのヒアリングを行い、現状のセキュリティに関する課題を抽出し、提言に取りまとめていく予定である。

F. 健康危機情報

総括研究報告書に記載

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願

なし

資料 医療機関から外部接続するユースケースの整理

No	ユースケース名	ユースケースの目的や背景	本ステップにおける実証可否	実証協力病院	備考
1	医療機関の既設ネットワークを利用したAIサービスの活用	病院に新たな工事負担なしに、既設ネットワークを利用し、クラウド上の医療AIサービスを活用できるか実証が行われていたため、その内容をレポートとしてまとめ、他病院でも活用できるかを検討する。	未実証 既に実証が行われていたため、その内容をヒアリングレポートに記載 実証期間 2024/5-2024/8	恵寿総合病院 病床数426床	利用技術・製品 ・ IP-VPN ・ インターネットVPN
2	地域医療連携システムを介したセキュアなインターネットの利用	各医療機関が医療AIの活用する場合に課題となるシステムの導入コスト負担を抑えるため、地域医療連携システムを活用し、医療AIの利用が可能かを検証する。	実証済み 実証期間:2025/3	東北大病院 病床数1,160	利用技術・製品 ・ CATOクラウド ・ Azure
3	インターネット分離システムを利用したWeb会議および、音声AIサービスの活用	医療AIの利用形態の1つとしてクラウド上にある音声AIの活用を検討しており、端末側マイクデバイスで利用できる新しいインターネット分離ソリューションを試験的に利用し、音声AIの活用やWeb会議が利用可能かを検証する。	実証済み 実証期間: 2024/8~2025/3	東北大病院 病床数1,160	利用技術・製品 ・ RevoWorksBrowser 導入実績 ・ 複数病院に導入実績あり(総数非公開)
4	医師が院外からセキュアにアクセス可能なシステムを利用した電子カルテシステムの活用	医師の働き方改革制度に伴い、これまで院内利用のみが主体であった電子カルテシステムを、医師が院外からセキュアにアクセスできる仕組みも必要になることが想定され、院外からセキュアに電子カルテシステムへアクセスできる仕組みについて検討する。	未実証 既に製品として実運用が行われているため、その内容をヒアリングレポートに記載	-	利用技術・製品 ・ RDP ・ IP-VPN ・ インターネットVPN
5	遠隔医療システムを活用した手術支援実施	離島やへき地における医療の地域差を縮め、医療の質の向上や患者の利便性の向上のため、遠隔医療の実証を徳洲会が実証していたため、その内容をレポートとしてまとめ、他病院でも活用できるかを検討する。	未実証 既に実証が行われていたため、その内容をヒアリングレポートに記載	-	5-1 利用技術・製品 ・ kizunaWeb ・ 導入実績: 15病院以上 5-2 利用技術・製品 ・ TELEPRO ・ 導入実績: 病院・大学含む15施設以上

図 1 医療機関から外部接続するユースケース一覧

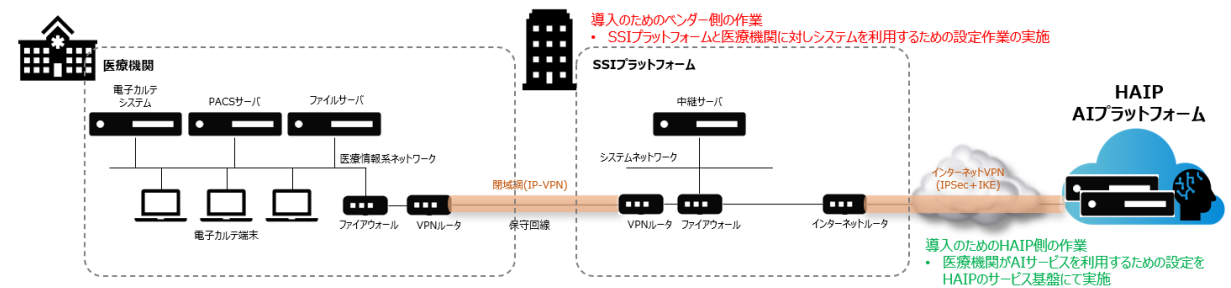


図 2 ユースケース 1 の概要図

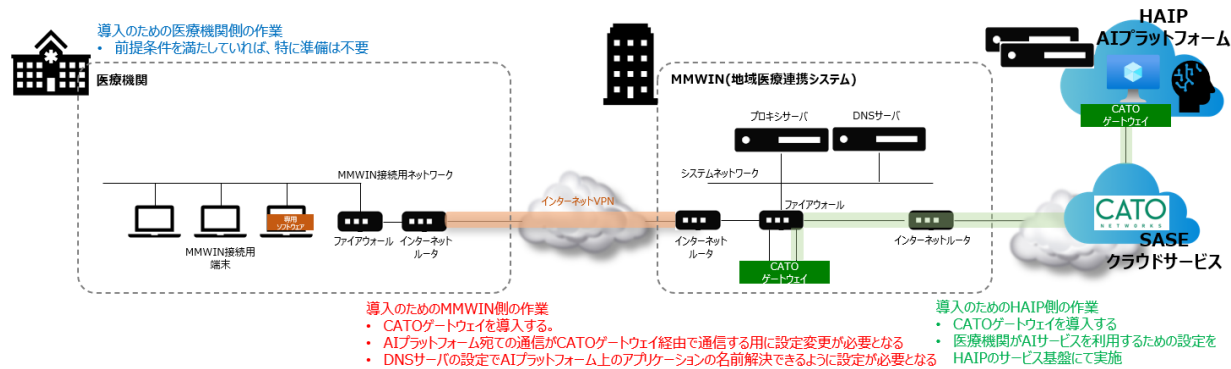


図 3 ユースケース 2 の概要図

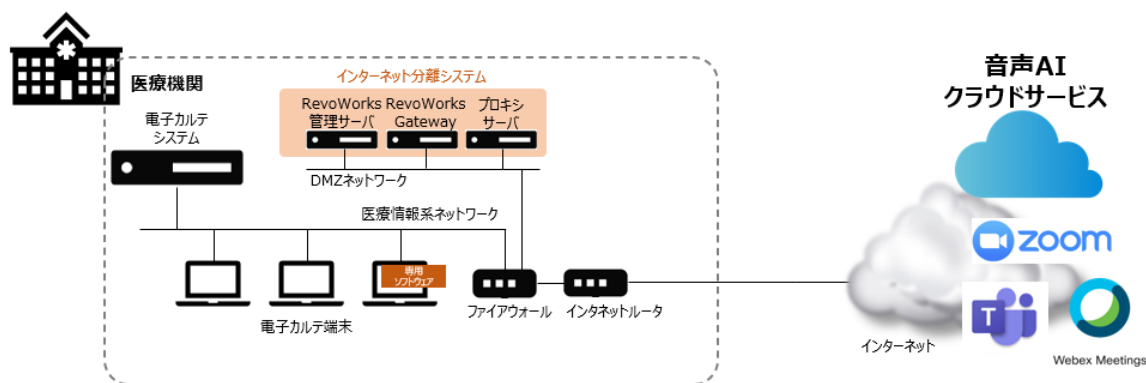


図4 ユースケース3の概要図

構成No	概要	接続元	接続先	接続方法
1	同じ電子カルテ情報を扱うクリニックから電子カルテシステムが存在する医療機関へRDP接続し電子カルテシステムを利用	クリニックの電子カルテ端末	電子カルテシステムが存在する医療機関	クリニックと医療機関を閉域網で接続、RDPを利用し、電子カルテシステムを利用
2				クリニックと医療機関をインターネットVPNで接続、RDPを利用し、電子カルテシステムを利用
3			電子カルテシステムが存在する医療機関の電子カルテ端末	クリニックと医療機関をインターネットVPNで接続、RDPを利用し、医療機関内の電子カルテ端末に接続し、電子カルテ端末経由で電子カルテシステムを利用
4	医師が外出先から医療機関の電子カルテを閲覧	外出用の持ち出し端末	電子カルテシステムが存在する医療機関	外出先の医師の利用端末から医療機関に閉域網を接続、RDPを利用し、電子カルテシステムを利用
5				外出先の医師の利用端末から医療機関にインターネットVPNを接続、RDPを利用し、電子カルテシステムを利用

図5 ユースケース4の構成パターン

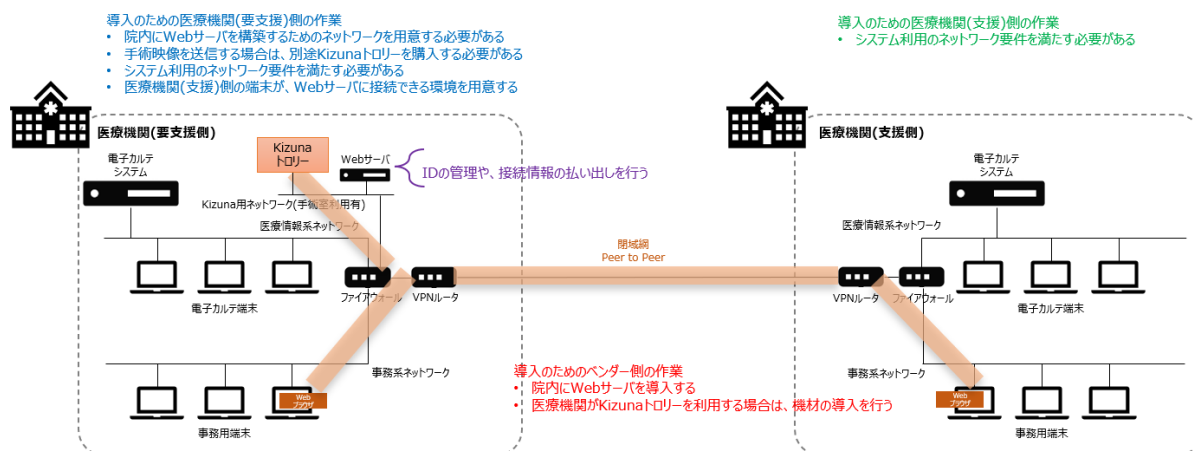


図6 KizunaWeb(ボーダレス・ビジョン社製品)

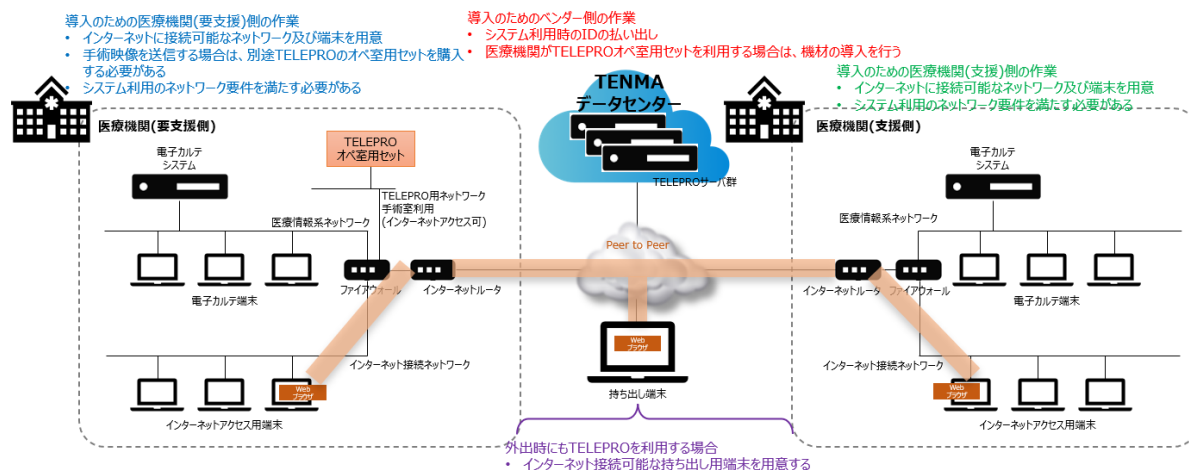


図7 TELEPRO(天馬諮問株式会社製品)